# 令和4年度 普天間第二小学校の取り組み(指定研究実践報告書)

## 1 研究主題

積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成 ~主体的・対話的な深い学び合いのある授業づくりを通して~

### 2 研究主題設定の理由

本市の英語教育特例校授業計画の実施以来、ALT・JTE とのTT形式に取り組んでいる。 歌やリズム遊び、読み聞かせ、ゲーム、スキットなどを取り入れて身近な英語を聞いたり話 したり表現したりという活動の中で、児童は楽しみながら英語に触れ、慣れ、親しんでいる。 また、国際理解教育とからめた国際交流学習に取り組むことで、異文化に興味・関心が高 まった。国際交流学習にあたっては、グループで友だちと対話したり、主体的に調べたりす ることで、深い学びのある授業となっている。児童からは、「英語は楽しい。」「もっと英 語を学びたい。」「もっと話せるようになりたい。」という声が聞かれた。

そこで、児童のモチベーションを高めるため、昨年度から引き続き今年度も、英語科においては、テーマを「積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」~主体的・対話的な深い学びのある授業づくりを通して~とした。

英語をつかって積極的にコミュニケーション活動を進めるため、英語のリズムと TPR (ジェスチャー・視線など) 等を使った、英語のコミュニケーションの仕方を活動の中に取り入れた。この活動は、英語で話す時のリズムや英語を覚えることへの抵抗を少なくすることができ、楽しく英語に親しみ主体的・対話的な深い学びのある授業づくりをすることで、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成につながると考えた。

また、外国への興味・関心を高めるため、国際理解教育とからめた国際交流学習を実践し体験することで、本年度の学習の終わりには、「もっと話したい」「もっと世界の人と対話したい」等、主体的に対話したいという児童が増えると考え、本テーマを設定した。

### 3 研究の主な内容

### (1) 学年・領域

教科として全学年で実施する。

- ○低学年・・・(英語に触れる・慣れる)英語のリズムに慣れる。体を動かして、伝えたい 気持ちを動作として取り入れる。
- ○中学年・・・ (英語に慣れる・親しむ)本のアルファベットからフォニックスの導入と TPR を取り入れた場面設定により、英語の聞き取り、簡単な意思表現ができる。
- ○高学年・・・(英語に親しむ・使う)フォニックスに慣れ親しみ、簡単な英語を読み、書き と特定の場面における伝え合いができる(自己紹介・買い物・道案内)。

### (2) ALTの配置

神里 理歌子	エレナ ヤマムラ
1・3・5年	2・4・6年

### (3) 各学年の実践

## 1学年の取り組み

~授業の主な流れ~

①グリーティング・ウォームアップ②クイズ・めあて確認③プラクティス④アクティビティ⑤読み聞かせ⑥ウォームアップ・まとめ 授業開始時の①グリーティングでは、今日の気分、天気、曜日、ルールの確認など、ジェスチャーを交えながら英語で行い、ウォームアップでハローソングや曜日など英語の歌を歌いながら、ダンスを踊っている。③プラクティスでは、フラッシュカードを活用して語彙の反復練習を行い、キッズティーチャーが発音した語彙を全員で発音する活動も行った。「Fruits(フルーツ)」の学習では、マッチングゲーム(神経衰弱)を行い、グループに分かれて床に広げたカードをめくり、出てきた果物を英語で言う活動を行った。また、果物がたくさん出てくるはらぺこあおむしの絵本を英語で読み聞かせをした。教室でも、「今日は Thursday だよ」と話したり、「英語で好きなフルーツを家族に教えたよ」と話したりする姿が見られた。







【曜日歌を歌う様子】

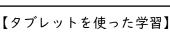
【出てきた絵を英語で言うゲーム】

【キッズティーチャーの発音練】

# 2学年の取り組み

学習の始まりは、英語の歌やダンスを通して、「数・形・色・体の部分」などの英語に慣れ親しむことができた。既習の内容を復習したり、新しい学習の単語に親しんだり、タブレットを使用した学習に楽しく取り組んだ。また、「感謝祭」や「クリスマス」など、外国の季節の行事の意味を知り、カードをかいたり、クリスマスツリーの飾りつけを楽みながら、異文化を学ぶ姿が見られた。







【カードづくり】



【体の部位を歌うダンス】

3学年の取り組み

授業のスタートは、クラスリーダーを中心に、あいさつ、曜日、天気の質問や4つの学習ルールを確認している。「This is for you.」の学習では、色や形、欲しいものを尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しみ、選んだカードにメッセージを書き、友達にプレゼントすることができた。「What's this?」の学習では、グループごとにヒントクイズや足あとクイズなどを作り、クイズ大会を行い英語活動を楽しんで行った。







【みんなで楽しくチャンツ】

【ヒントクイズで What's is this】

【元気よく答えました】

## 4 学年の取り組み

『Do you have a pen?』の学習では、文房具の言い方を練習した後、ペアで持っている文房具を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむことができた。また、『What do you want?』の学習では、さまざまな食材のいい方を練習した後、グループでピザづくりを楽しむことができた。どの単元でもインタビューやゲーム等、児童の楽しめる活動を取り入れながら学習を進めることができた。







【ペアで持っている文房具を尋ねる様子】

【グループでオリジナルピザを作る様子】

【インタビュー活動の様子】

## 5 学年の取り組み

class リーダーを中心にあいさつから授業が始まり、天気・曜日・日付・時刻を確認する。さらにルールを確認し、授業への参加意欲や学習雰囲気を高めていくことができた。クラスルームティーチャーと ALT のデモストレーションから既習事項や聞き取れる単語をつないで本時のめあてを導いていくことで、聞き取ろうとする態度が育ち、主体的に課題に向かう姿勢が身についてきた。

「I'd like pizza.」の単元では、英語で注文したり接客したりする活動を通して、机上だけの学習ではなく活用する英語へと意識が変化していった。また、日本語と英語の発音の違いやアクセントの違いに気づき、声に出して練習する児童が多い。グループでのゲームやペアでの英会話のやりとりを多く取り入れた成果だと考える。

# 6 学年の取り組み

授業開始時は、class リーダーを中心に、あいさつ・天気・曜日・日時や5つの学習ルールを確

認している。前時の学習を振り返り、単語の発音を確認したりゲームをしたりすることで、楽しく英語表現に慣れ親しんでいる。さらにタブレットを活用し、将来の夢や紹介したいスポーツ選手など英語で発表することができた。「オリンピック・パラリンピック」の単元では、パラリンピック競技を実際に体験することを通して、単元への関心を高め、英語活動への意欲へとつなげることができた。







### 特別支援学級 (レインボー) ハロウィンパーティー

特別支援学級 6 学級 (1 年生~6 年生) での合同学習として、レインボーハロウィンを実施した。授業前半は英語で自己紹介、ハロウィンの由来、ゲーム。授業後半は、校長室や事務室などを回ってお菓子をもらい、楽しい雰囲気の中で英語に親しむことができた。また手作りの仮装や小道具で楽しんで取り組むことができた。



ALT が、ハロウィンの由来やキャラクター の名前を紹介しているところです。



事務室にて「トリックオアトリート!」と 言いお菓子をもらっているところです。

# 4 成果と課題

#### 〈成果〉

低学年

- ○ALT の発音を意識してリスニングしている。
- ○日本語と英語の発音に気をつけて取り組むようになった。
- ○英語が好きな子が多く、積極的に参加している。
- ○ネイティブの発音に親しむことができた。
- ○ゲームを通して、楽しく英語を学ぶことができた。
- ○デジタル黒板を使った導入活動で楽しむことができた。

- ○ALT との事前の打ち合わせや、ALT による場の工夫が良くて、授業にスムーズに取り組める。 中学年
- ○活動が多く、楽しく意欲的に学習することができている。
- ○習ったフレーズをつかって、スムーズに学習する姿が見られた。
- ○映像を取り入れたゲームを楽しくできた。高学年
- ○ALT による指導計画の作成、教材作り等により、学年全体で統一した授業を行うことができ、互いに 共通確認しながら、単元を進めることができた。
- ○児童の外国語に対する知識・技能・主体性が向上し、基礎力の定着につながった。
- ○外国語でのやり取りを通して、児童がコミュニケーションする上で大切なことにも気づくことができ、そこで学んだことを他教科や生活の中で活かすことができた。
- ○ALT との連携により、不慣れな外国語にも安心して取り組むことができた。
- ○話すこと、聞くことを中心に学習しているため、英語が好きな児童が多い。
- ○発音やアクセントがスムーズに習得できている。
- ○文法が分からなくても、自分が分かる単語でコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。

#### 〈課題〉

### 低学年:

- ●意欲があり過ぎて(特別支援児童)、じっとしていられない。
- ●ごほうびシールを配る時間が、時間が延びることがある。
- ●シールを担任に預けて、空き時間に配るのはどうか。
- ●すでに、「英語分からないから嫌い。」と言う児童がいる。(他の教科でも記憶することが苦手。) 中学年:
- ●時間が足りず、振り返りを共有できなかった。
- ●分かりやすい指導なのに、子どもたちに定着していない。定着させるためにはどうしたらいいか。 高学年:
- ●個人差があり、外国語を話すことに抵抗がある児童がいた。
- ●英検 Jr. と普段の学習内容がつながっていない。
- ●音声と文字の結びつきが弱い。

### 5 外部評価 (学校関係者評価)

成果	課題
○ゲームや映像を取り入れて児童が楽しく活動	●先生やALTの先生が、マスクをちゃく
している。	ようしているので、透明のマスクにする
○発音やアクセントが習得でき、自分がわかる	工夫が必要と感じた。
単語でコミュニケーションを取ろうとする意	●英語を話すことに抵抗がある児童への支
欲がある。	援が必要。
○例文を参考に自力で単語や文を楽しみながら	
書く姿が見られた。	